

## よこはま夢ファンドの寄附の新たな活用（チャレンジ支援事業）について

### 1 趣旨

よこはま夢ファンドの新たな活用の一つとして、よこはま夢ファンド登録団体を対象とし、団体の組織基盤強化を目的とした「チャレンジ支援事業」の実施について、昨年度から横浜市市民活動運営支援事業部会（以下「部会」という。）及び横浜市市民協働推進委員会（以下「委員会」という。）にて検討していただいています。前回の委員会にて出た御意見を基に「チャレンジ支援事業」の具体的な手法について案を作成しましたので、審議をお願いします。

### 2 チャレンジ支援事業の概要

#### (1) 目的

よこはま夢ファンドでは組織基盤の強化を目指す団体に対し、事業実施にかかる費用を助成し、団体の組織基盤の安定や強化を図ることにより、市民公益活動の活性化へと繋がります。

#### (2) 対象

よこはま夢ファンド登録団体

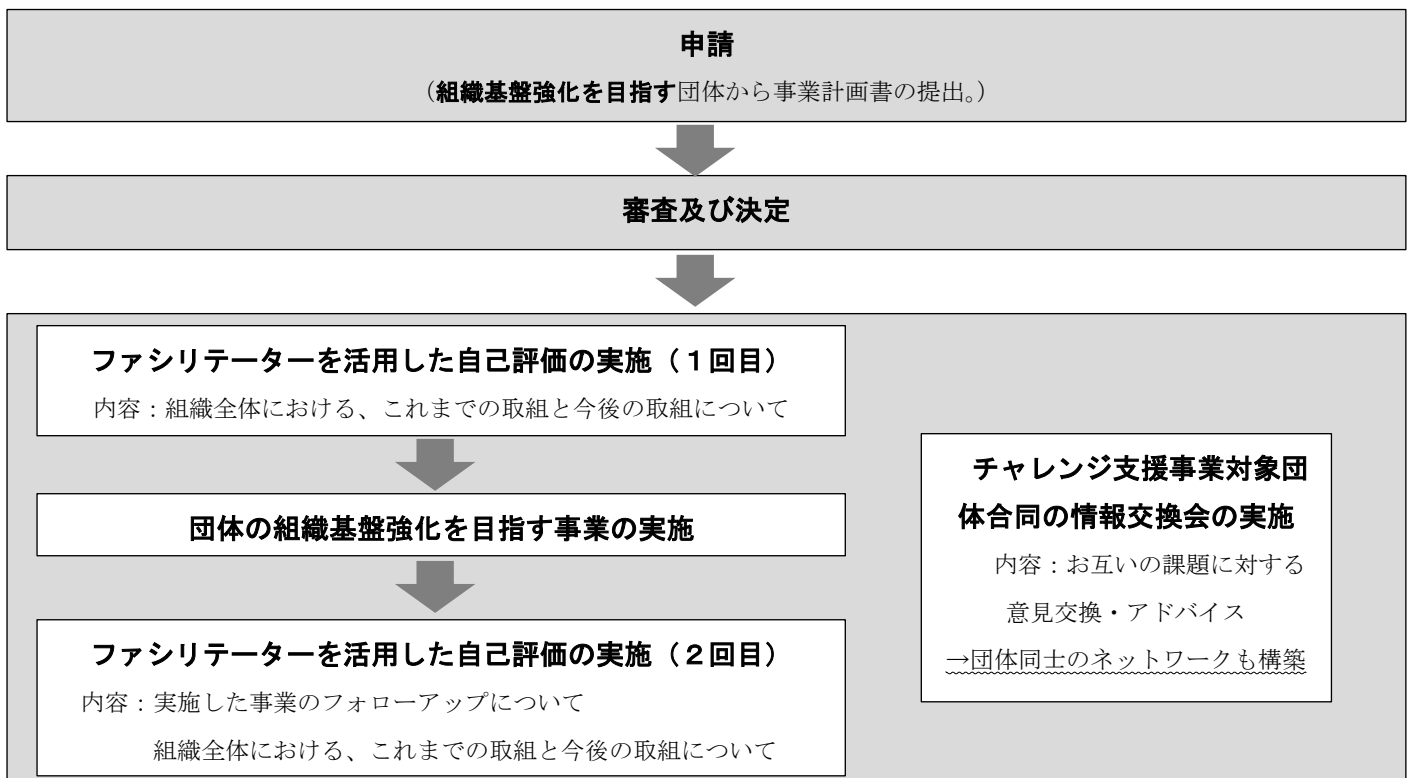
#### (3) 事業内容

- ① 団体の組織基盤強化を目指す事業の実施にかかる費用の助成
- ② 自己評価の実施（2回）にかかるファシリテーター費用の助成
- ③ チャレンジ支援事業対象団体合同の情報交換会の機会の提供

#### (4) その他

従来の「市民活動支援専門アドバイザー派遣事業」のアドバイザー（税理士及び社会保険労務士）に、ファシリテーターを加え、自己評価の実施の際に活用します。

### 3 チャレンジ支援事業の流れ



#### 4 団体の組織基盤強化を目指した事業の例（団体申請事業） ※次回の部会、委員会において審議

団体の組織基盤強化を目指した事業を申請の対象とすることを想定しています。

- (1) 寄附文化醸成、支援者拡大、会員増加につながる事業
  - ・ ホームページ、ブログ、SNS、メールマガジン等作成
  - ・ 広報誌、リーフレット作成
  - ・ ファンドレイジング
  - ・ 団体 PR 映像作成
  - ・ 団体 PR イベント
  - ・ 調査研究
- (2) 人材育成事業
  - ・ 団体職員のスキルアップ（外部開催講座への参加、団体内での外部講師による講座実施）
  - ・ インターン、ボランティアの受入れ
- (3) その他組織基盤強化を目指した事業

#### 5 年間予算

3,990,000 円（上限）

（内訳）

- (1) 助成金交付金額

3,000,000 円

300,000 円（上限）×10 団体（上限）=3,000,000 円

- (2) ファシリテーター費用

990,000 円

①団体ごとに自己評価する際のファシリテーション費用

45,000 円×2 回×10 団体=900,000 円

※1 団体あたり 2 回派遣（4 時間×2 日間）・・・1 回 45,000 円

②団体合同の情報交換会におけるファシリテーション費用

45,000 円×2 回=90,000 円

※1 回 4 時間程度を想定、5 団体ごとに分けて開催

#### 6 チャレンジ支援事業の実施に向けた今後のスケジュール（予定）

平成 26 年度	5 月 15 日	部会にて、チャレンジ支援事業の概要について協議
	6 月 9 日	委員会にて、チャレンジ支援事業の概要について協議
	9 月 19 日	委員会にて、チャレンジ支援事業の概要について審議
	10 月 17 日	部会にて、チャレンジ支援事業の募集要項について審議
	12 月 12 日	委員会にて、チャレンジ支援事業の募集要項について審議
	1 月頃	チャレンジ支援事業の募集要項を登録団体に配布
平成 27 年度	夏頃	第 2 回横浜市市民活動推進ファンド助成金交付募集の際に、チャレンジ支援事業の申請受付
	夏頃	部会及び委員会にて、平成 27 年度チャレンジ支援事業の申請審議

※平成 28 年度以降のチャレンジ支援事業については、第 1 回横浜市市民活動推進ファンド助成金交付募集（前年度 2 月）の際に申請受付を行う予定。

**参考資料：第1期第5回横浜市市民協働推進委員会 各委員からの主な意見（抜粋）**

（治田委員）申請をする前に振り返るといのが、私の中では非常に違和感があります。要は、チャレンジ申請のところにチェックをつけて、今回、こういうところを強化したいから30万の枠をくださいという話で、もっとシンプルでいいのではないかという気がします。

（松村委員）（チャレンジ支援を、）この1（スタートアップ支援）と3（通常の団体支援）の中に入れて、これは連続性があるような感じがしますが、少し性格的にはこの制度を補強するような形とりつつ、別な方向に走っているような気もしないではないです。～中略～2回目の申請（チャレンジ支援）みたいなものの課題がはっきりしているのであれば、それ用の制度と考えたほうが整理しやすいのかなとも思います。

（奥山委員）補助金を交付する団体にはアドバイザーが始めから3回もれなくついていて、そこを含めて、やる気があるところに補助金を交付しますみたいな前向きなフォーマットでコンサルつきみたいな形のほうがいいなと思いました。

（時任委員）なかなか1回の打ち合わせといいますか会議では、そこまで団体の力がつかないと思います。寄附が集まらないのは、お金を集めることができないという一つのことだけではなく、やはり共感を呼ばない、呼べない、事業ができてない、団体の基盤が整っていないなど、さまざまな視点でやらなければならない振り返りだと思うので、やはりここに振り返りということを入れる以上は、そのところをきちっと決めないと、なかなか仕組みがつかれないのではないかと考えています。

（三輪委員）振り返りという言葉は確かに本当によろしくないなというふうには思いますが。多分、ただ、自分たちの団体がどういう目的だったのかって立ち返って、このお金本当に要るのかなとか、あるいは新しくこういう事業を展開するために次行こうね、みたいな話をするきっかけを与えるという意味の書類にしてほしいなと思います。

（酒井委員）振り返り書ですが、特に3番、4番のところ、これから団体の運営基盤を強化しようとする取り組みとして書くのか、頑張った団体が書くのか、この辺がごちゃごちゃになっているのかなと思いました。

（中島委員）多分、基盤強化ですとか未来志向なものであるからこそ、寄附金が集まってもお金がきちんと支給されますよという、将来に対する投資みたいな意味合いがあると思いますので、全体的にはそういう志向性のもことになるのかなという印象を受けています。

（松村委員）本来ならば何かコーディネートできる方がいて、その方の派遣というか、それも含めてのほうが、いろいろ実際の事業を後から振り返るときにも、統一してやりやすいと思います。

（治田委員）振り返りの仕方というのは行政として設定されてしまうと行政にとって都合がいいNPOがいっぱい出てくるようなシートになってしまうような気がします。そこは本来だったら、民間で例えば研究会なりを立ち上げて、そこで議論してできたフォーマットを行政のものと照らし、それでそういうものを見せてくるのであればいいのですが、振り返りありきでそういうものを設定するのはとても怖いと思います。

（時任委員）スタートアップ支援、1、2、3は要らなくて、2から、まずチャレンジ支援から入りたいという

団体さんもいるんだろうなと思いました。自分たちの団体をもう一度確認して、力をつけて、それで事業をやりたいというところがあるので、そうすると、7万円のスタートアップじゃなくて、30万円で力もついて、お金ももらえるというほうが割と明確でわかりやすいかもしれません。

(松村委員) 団体が一堂に会して、それぞれ振り返りし合っていることをどこかで共有していくとか、そういう場をつくって、その中にももちろん進行役のファシリテーターはいるかもしれませんが、そうすると色々な振り返りの仕方が出てくるのではないかと。治田委員が心配されるようなことは、そういうファシリテーターがいて団体がいてとなると、かなりやりにくいというか、行政に都合のいいような形で推論づけられる心配があるとする、もう少しオープンな場で、それぞれ課題を持っている団体がそれぞれの課題を発見して、気づいていき、という場があるのは、それなりにいいとは思いますが。

だから、だんだんこのチャレンジ支援の制度から外れていってしまいますが、皆さんおっしゃっているように、なかなか団体で課題をきちんと見つめる機会ってないもので、一方でその必要性を感じているところはたくさんあると思います。ただ、逆に効果が見えにくいものなので、なかなかそういう助成に踏み切るファンドってないのです。まさに行政であればこそできるかもしれません。

(三輪委員) 団体の基盤強化というか、そもそももう一回自分のところの立ち位置を振り返ってもらって、本当に自分たちの目指すべき方向を考えるきっかけを与えるお金というのは、夢ファンド的にはありだと考えられなくはないと思うので、先ほどのように、初回とか3回目とかにもくつついてもいいと思いますし、また全然別立てでもいいかもしれません。

(小濱委員長) 今出た意見の中で手続の簡略化みたいな話は1つありましたよね。同じような紙を何枚も出させるのという話があったでしょう。それから、ファシリテーターの扱いをどうするかという、ファシリテーターつきというのはすごくいいアイデアだなと思いましたが、結構ファシリテーターを見つけるのは難しいですからね。こうやって①、②って書いてあるけれども、もうセットのほうが楽かなという気がしました。

それから、今話題になっていたフォーマットですが、振り返りといったって、何を振り返るのかという話で、ここに書く欄があるけれども、例えば目標に対してどうだったとか、あるいは資金的にどうだったとか、会員をふやすという面ではどうだったと、切り口がたくさんあるような気がします。書いてあげたほうが標準化もされるし、親切かなと思います。

それから、もう一個、事務局で検討してほしいのは、この振り返りという言葉。自己評価の方が良いと思います。振り返りという言葉は口語なので、意味はよくわかりますが、自己評価とか自己点検とか、適当な言葉にしたらいと思います。

あとは、もしこういう自己点検とか自己評価するのであれば、振り返るばかりじゃなくて、皆さんの意見出しましたが、目標みたいのはありませんかね。これをもらったらこうするみたいな、それを何かポジティブな面を評価するのは、それも出したらいと思います。

(中島委員) 団体同士で、ピアカウンセリングではないですが、情報交換して高め合っていく。そうすると、多分、受けた団体が持っている課題というのは、ほかの団体の課題でもあると思います。そういうのがデータベースみたいのになっていくと、お金を出さなくても、自力で解決できるようところは自力で解決しますし、お金が必要だったら、この仕組みにお金を申請するしというような、夢ファンドとは全然違ってきてしまうかもしれませんが、ファンドと団体の1対1の関係から、団体同士の関係ができるようなものを目指すというのも手かなと思います。

**【別紙資料】よこはま夢ファンドの寄附の新たな活用（チャレンジ支援事業）について  
～年間予算参考資料～**

**1 現在の活用可能額について**

よこはま夢ファンドの「チャレンジ支援事業」では、よこはま夢ファンドの活動分野希望寄附・希望なし寄附を活用する予定です。平成26年3月31日時点での活用可能金額は次の通りです。

希望なし・分野希望寄附	活用可能額(円)
希望なし	9,119,808
保健・福祉・子ども	10,464,010
まちづくり・環境	1,845,735
文化・スポーツ	912,100
国際・人権・平和	1,600
経済・観光振興	28,333
合計	22,371,586

**2 チャレンジ支援事業実施後の活動分野希望寄附・希望なし寄附活用の年間予算額について**

チャレンジ支援事業実施後（平成27年度予定）は、活動分野希望寄附・希望なし寄附を、年間を通し次の通り活用していく予定です。

	見込額(円)
講座等(登録団体研修会・運営支援講座)	800,000
広報(リーフレット・ポスター等のデザイン・印刷)	400,000
助成金交付(スタートアップ支援・通常の団体支援) ※平成24年度(約30万円)・平成25年度(約67万円)実績から予測	500,000
横浜市市民活動支援専門アドバイザー派遣(チャレンジ支援による活用を除く)	600,000
助成金交付(チャレンジ支援事業)	3,000,000
横浜市市民活動支援専門アドバイザー派遣(チャレンジ支援事業による活用)	900,000
団体情報交換会(チャレンジ支援事業)	90,000
合計	6,290,000